

キャラクター名 蜂巢 筵 (はちのす むしろ)      プレイヤー名  

シンドローム	ノイマン		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	高校生
	ノイマン					
オプション	年齢		15	性別		男
覚醒	犠牲	衝動	破壊	初期侵食率		32 %
出自	姉妹	経験	秘密	邂逅	秘密	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	0	0	1			1	行動値	8
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	8
精神	6	0	0			6	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	3		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	6	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	射撃	9r+3				
	射撃	1r+3				
		0				
	射撃	12r+3				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
<b>ロイス</b>					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	タス	消費
超血統	P	N			
ローザ・バスカヴィル	P 執着	N 偏愛			
家族写真	P 純愛	N 嫉妬			
洞岸	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:		16	残り財産P:		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ノイマン	2	2	メジャー	-	-	-		
効果: C値-1v								
コントロールソート	1	2	メジャー	武器	-	対決		
効果: 精神で射撃を振れる								
マルチウェポン	7	3	メジャー	武器	-	対決		
効果: 武器を二つ使える								
ヴァリアブルウェポン	5	3	メジャー	武器	-	対決	リミット	
効果: 武器をlv個追加で使える								
零距离射撃	2	2	メジャー	至近	-	対決		
効果: ガイス+1v,同I「ガージ」不可は至近に								
スキルフォーカス	4	2	メジャー	-	-	-		
効果: 選択した技能の達成値+lv*2								
コンバットシステム	1	3	メジャー	-	-	対決		
効果: ガイスlv+1								
常勝の天才	5	6	セット	-	シ(選択)	自動	ピュア	
効果: 自分以外の攻撃力をワウド`中+lv*4								
ドクタードリトル	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

何も知らなかった。13歳、まだまだ義務教育を受けるような歳だし世間のことなんか知らないのは当たり前だと思う。でも知らなかったのは僕だけじゃない。お父さんもお母さんも先生だって、たくさんの人が世の中には現実離れた現実と訳の分からない理不尽がたくさんあることなんかは知らない。僕もそうならよかったのに。こんなことを言っているんだからわかると思うけど、僕が何も知らないままでいられるのは13年で終わった。

邪魔だな掃除しておくか、そんな一言で僕の帰る場所はなくなった。どんどん崩れく家の中で、何かからかばうように姉は僕を必死に抱きしめていた。いたずらが好きだった姉、僕をからかった後にゴメンゴメン!と抱きしめてきたけど、その時は何かおかしかった。無駄に胸が大きかったからいつもは重くて窮屈で息苦しいばかりなのに、その時は僕でも持ち上げられるような気がするくらい軽くてやけに濡れていつもより力がつよくなった。正直少し苦しかった、けどそんなに悪い気はしなかったな。いつまで抱きしめていたんだろう話しかけても無視されるし全然からは弱まらないし、最後には固くなってる気もした。濡れていた服が体に張り付いてかたまっていく感触。冷たくなっていく姉の身体。肩越しに感じる髪の毛の香り。決して振りほどけない腕。僕の呼吸の首以外なにもなかった。どうしてずっと誰もなかつたんだろう、家が崩れるなんてめったに起こることじゃないしそんなことが近所であつたら僕だって気になって見に行くと思う。そんなことうすらと考えながら長い時間がたった。日の光が僕らををたらしだした頃に誰かがこちにくる。太陽が温かかったのか人が来て安心したのか、眠くなってたんだと思うそのあとのことはよく覚えてない。数日過ぎてようやく何が起きたのがよくわからない人から説明された。動かなくなった姉は、首あたりからかぶせられた布越しに見ても胸あたりからお腹にかけ薄くて、こんな体で何から守ろうとしてたんだろう、すぐに病院に行けば何とかなったかもしれないのに。声をかけても返事はこない。勝手にいなくなるのでほしい、返事ができなくなる前にさよならでも行ってきますでもでもいいから声をかけてくれれば僕だって返事ができたのに。後から聞いた、お父さんもお母さんも一緒に死んだらしい瓦礫につぶされて特定に時間がかかったみたいだ。やけに頭だけさえて嫌になる。もう考えたくない。

レネゲイドウィルス、オーヴァード、UGN、FH、世の中には知らないことがあふれている。それでわかることは少しだけ増えた。僕の身に何が起きたのか、なにが姉を殺したのか、自分が何になったのか。無知な僕に知を与えた人に従って生きていこう、選択肢なんてない。いくら体が丈夫になろうと吹けば飛んでしまうような命だ。僕は、僕の信じる人に害をなすもの許さない。